

辻 晴雄氏、宮内義彦氏ら8氏に 2005年度アドバイザー・パネル

社会のニーズに即応する教育・研究活動を展開するのが商学部の特徴といえます。その大きな柱の一つが「アドバイザー・パネル」制度。財界人や会計士・税理士など専門職業人で構成され、ビジネス現場での経験をもとに、商学部また研究科の活動にさまざまなアドバイスを行うほか、時には講演や講義も担当します。

そのアドバイザー・パネルの2005年度の委員が、このほど以下の8氏に決定しました。

辻 晴雄「シャープ」相談役、宮内義彦「オリックス」代表取締役会長、宮原 明「富士ゼロックス」相談役、千野和利「阪急百貨店」常務取締役、島 洋一「カネカ」常務取締役、妹尾俊之「大広」ナレッジ開発局部長、関学出身公認会計士の団体「弦月CPA会」会長でもある林 恭造「新日本監査法人」代表社員、池田隼啓「日本税理士会連合会近畿税理士会」会長。

アドバイザー制度が出来て12年。今年も強力な布陣となっています。

6人の受給者決定、笹森奨学金

2005年度商学部奨励奨学基金の受給者6人がこのほど決定。6月15日、基金創設者である故笹森四郎元商学部教授・名誉教授（写真）のご令室、笹森一枝氏を招いて、授与式が行われます。

同奨学基金は、国際商事仲裁や商業英語などの分野で活躍、商学部長も務められた笹森元教授が1987年6月に亡くなられた際、ご遺族から1億円相当額のご寄附をいただき、その一部を基金化して奨学金として活用しているものです。故人の専門分野に因み、年間支給枠6人の内3名を外国人留学生成績優秀者に支給しており、残る3名を日本人成績優秀者に支給しています。



設置後11年を経た現在、今回の受給者を含めて67名の学生が奨学金の恩恵を受けています。

これが、商学部の教育目標です。

「真に創造的な能力を有するビジネス・パーソンの育成」。これが商学部の教育理念ですが、この理念を具現化するために、商学部では三つの目標を掲げています。

その一つが、高度な専門知識と管理の技法の修得、一つがグローバルに展開する現代経済・社会の理解に不可欠な総合的教養の修得、残る一つが言語やIT、企画・提案など幅広い分野にわたるコミュニケーション能力や意思決定能力の高度化です。

理論と実践の関連性を重視したカリキュラム編成、アドバイザー・パネルを始めとした産業界との連携の中で、常に最新かつ高度な情報を提供することにより、ビジネスの第一線で活躍できる人材、そして会計・税務など商学関連の専門職者の輩出を目指しているのです。

自動車通学禁止・バイク通学自粛、 学生マナー向上キャンペーン

春の自動車通学禁止・バイク通学自粛キャンペーンと学生マナー向上キャンペーンが5月16・19日の両日、延べ44名の教職員・ガードマンが参加して実施されました。

仁川百合野町から上ヶ原四番町周辺まで5ポイントに分かれて行われた迷惑駐車調査には商学部から学生主任、副主任も参加しました。結果はやや改善されてはいますが、まだ迷惑駐車をする学生も見受けられました。

一方、甲東園駅前や正門周辺など6カ所で「タバコのポイ捨て禁止」や「交通マナーの遵守」を呼びかけたマナー向上キャンペーンでは、県西高校前交差点の信号無視、中央芝生のボール遊び、歩行喫煙などの報告事例が相変わらず多くありました。

GPA制度の導入

今年度より、全学的にGPA（Grade Point Average）制度が導入されました。この制度の対象となるのは、2005年度入学生からです。自分の学習目的をしっかりともち、履修管理を行うことによって、

効率的に目的の達成を目指しましょう。

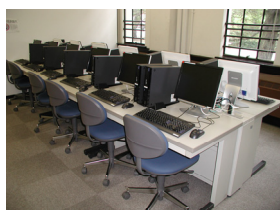
GPAの詳細については、『2005年度・学習と履修の手引き』の「カリキュラム編」（61頁）、算出式については同手引きの「履修編」（6頁）を参照してください。

商学部のコンピュータ利用室

商学部では、本館(1F)とD号館(D302)に学生の皆さんが自由にコンピュータを利用することができる部屋を用意しています。とくに、本館のコンピュータ利用室には、グループ利用を目的としたブースも用意されています(液晶プロジェクタ、ノート型コンピュータ利用可。要予約。)。ゼミなどでのグループ発表の準備などに役立ててください。

なお、コンピュータの台数や利用時間などの詳細は以下のWebページでみることができます。一度閲覧ください。

<http://www-sba.kwansei.ac.jp/pcroom/index.html>



チャペル案内

「チャペルで心の土台を作る」

チャペルは、ビジネスに携わる者にとって欠かせない、人間の内面的な土台作りの場です。商学部で学ぶ知識は、人々の幸せに役立てることもできれば、私利私欲に用いて社会に害を与えることもできます。知識を正しく活かせるためには、心の土台をしっかりと作っておかねばなりません。1限と2限の間、わずか30分ですが、関学の伝統であるキリスト教に触れつつ、真の奉仕のあり方を学び取るこの時間を有効活用して下さい。

教員の著書出版

平松一夫教授

『会計基準の国際的統一』(中央経済社)

頒価4,200円。編著 2005年2月28日発行

著者のことば「本書は諸外国における国際会計基準の導入状況を分析し、わが国として取るべき対応を検討したものである。」

林 隆敏教授

『継続企業監査論』(中央経済社)

頒価3,600円。単著 2005年3月31日発行

著者のことば「企業倒産リスク情報の開示と監査を巡る諸問題を、財務諸表監査の視点から研究。」

辻 学助教授

『ナザレのイエスと信仰のキリスト』(新教出版社)

頒価1,900円。共訳 2005年2月18日発行

著者のことば「イエスがなぜ<キリスト>と信じられるようになったのか、その過程を考察した論文ほか3篇を収録。」

教員の受賞

寺地孝之教授

日本郵政公社総裁表彰 2005年4月20日付

<対象研究>

論文『金融排除と郵便貯金の役割—イギリスの経験と現状を踏まえて』他、郵政事業に関する諸研究と政策提言

<< 教員紹介 >>



辻 学 宗教主事

1964年神戸生まれ。関西学院中学部・高等部から神学部、大学院神学研究科に進む。中学部・高等部ではフットボール部に所属。日本基督教団甲子園二葉教会で牧師の仕事をした後、スイス・ベルン大

学に留学、神学博士号取得。1997年から商学部宗教主事。専攻は新約聖書学(詳細はホームページ参照)。趣味は週末の早朝ウォーキングと阪神タイガースの応援。夫より虎キチの妻、なぜか巨人が好きな息子、親より雄弁な娘と共に暮らす毎日。



深山 明 学部長

フランスの哲学者・数学者・物理学者であったパスカルは、「人間は考える葦」と言った。17世紀のことである。それから約350年後の日本において、「ものを考える人間」が強く求められて

いる。物知りであることの価値は否定しないが、「いまどのくらいの知識をもっているか」ということはそれほど重要ではない。学生諸君は「ものを考える力」を培わなければならない。それは一朝一夕に得られるものではなく、日頃の心掛けが大切である。